

【2020年度 技術賞部門賞】

おおさかタイムライン防災プロジェクト

大阪府

事業概要

<背景>

大阪府では、「人命を守ることを最優先とする」基本理念のもと、「逃げる」「凌ぐ」「防ぐ」各施策を効率的・効果的に組み合わせるトータルマネジメントにより治水・土砂対策を進めており、その内の「逃げる」施策の取組みにおいて「タイムライン防災」を進めている。

<事業内容>

「タイムライン防災」とは、防災関係機関が連携して、災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目し、防災行動とその実施主体を時系列に整理した計画である。本府では、タイムラインを3つに分類し、平成29年からリーディングプロジェクトに着手し、先行事例をモデルに、洪水や土砂災害、高潮災害など異なるハザードも対象に加えながら、国や市町村と連携し、タイムライン防災を大阪府全域に拡げている。

<課題となっていた点>

- ・降雨現象や被害事象が極端化している ・自治体の判断や意思決定の支援体制構築が急務
- ・災害の教訓を継承し、共有することが出来ない防災社会
- ・大規模災害は様々な防災機関の連携プレーが重要、しかし ばらばらの災害対応

技術の概要

タイムラインで変わる防災(全国初のプロジェクト)

【新しい技術】

大阪府全域で、市町村と様々な防災関係機関、地域とで連携し、府民自らの適切な防災行動に繋がるよう、地域防災力向上に努めている。

- ・先行取組みを「繋げる」
- ・既存の防災の取組みをタイムライン防災へ「深める」
- ・新たな地域、異なるハザードにタイムライン防災を「広げる」



例) 寝屋川流域大規模水害タイムライン

成果

タイムラインを導入することにより、以下のような効果が期待。

- ・災害時、実務担当者は先を見越した早め早めの行動ができる。
- ・防災関係機関の責任の明確化、防災行動の抜け、漏れ、落ちの防止が図れる。
- ・防災関係機関のあいだで顔の見える関係を構築できる。
- ・災害対応のふりかえり(検証)、改善を容易に行うことができる。

<地域への貢献度・将来の発展性>

水害及び土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」と「社会経済被害の最小化」の実現を目指し、最大の使命である府民の安全・安心を守る効果を推進。

また、単に安全の確保だけでは、持続性、自立発展性は見込めず、確実に災害への備えを定着させるべく自助・共助・公助の適切な役割分担の構築、社会の災害対応力向上の拡充。